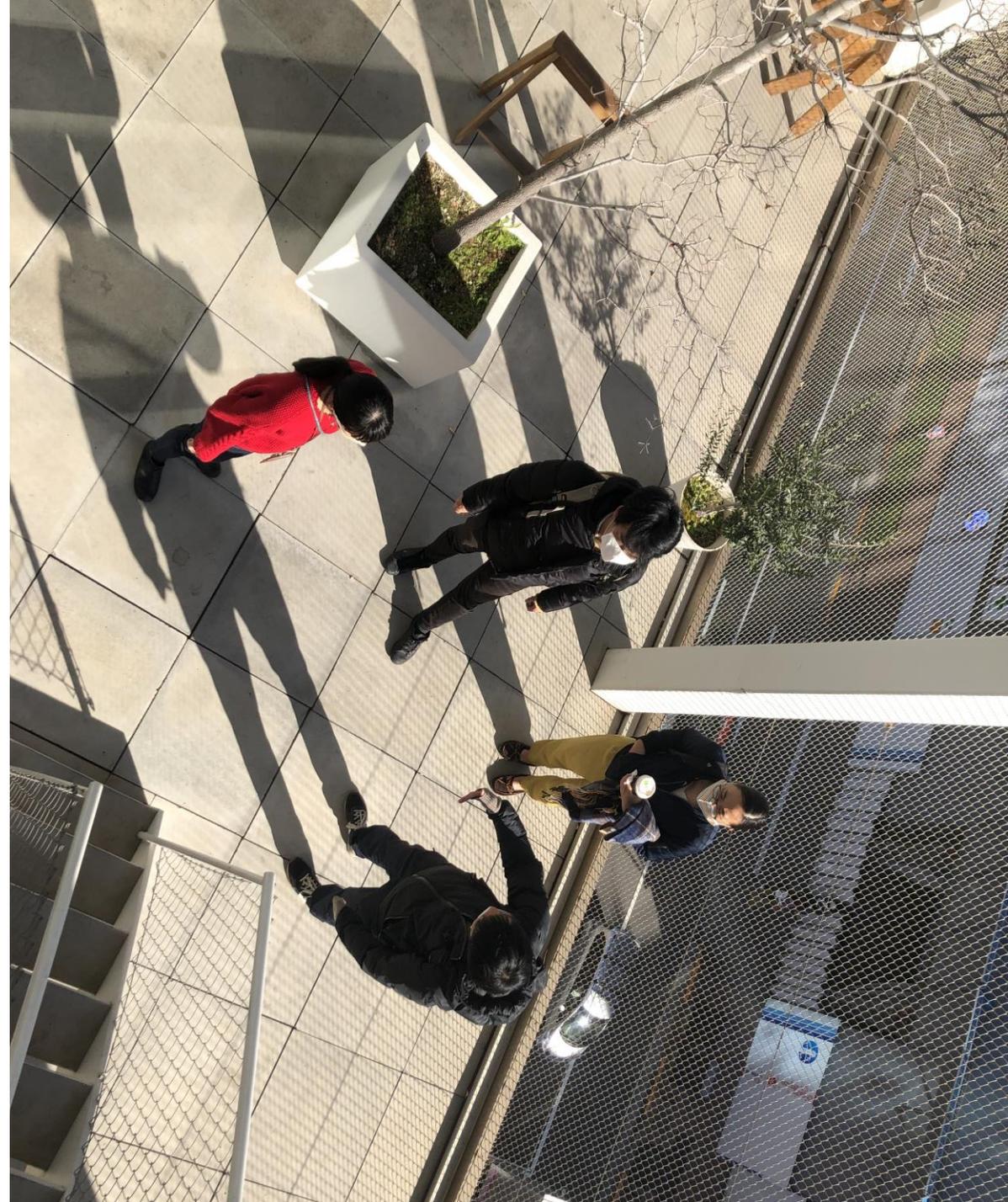


# 全国ユースチャレンジ 2020 報告会

アクションリサーチー“共に  
創る”場づくりの再考と未来  
に向けてー

東京YMCA 高等学院・libyユーススタッフ

このプロジェクトは日本YMCA同盟の助成を受けて  
実施しました。

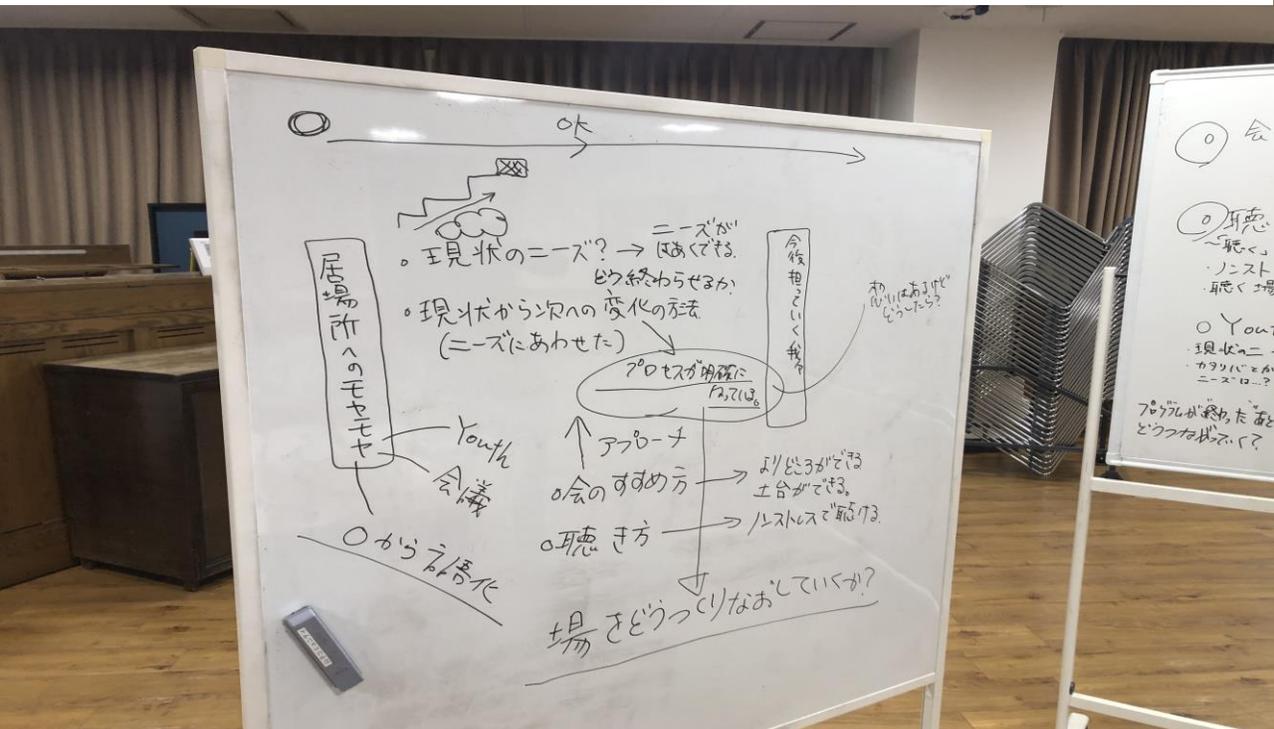
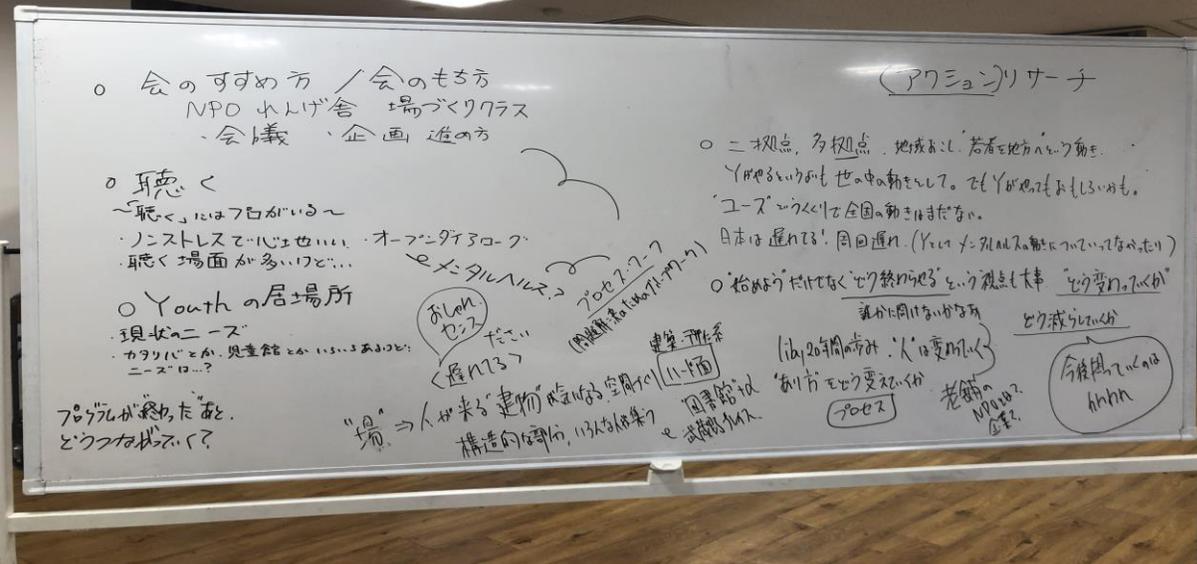


# はじめに

- 今日の流れ
- 企画名

## アクションリサーチー

“共に創る”場づくりの再考と未来に向けてー



### メンバー

- [Redacted]
- [Redacted]
- [Redacted]
- [Redacted]

### 実施期間

2020年12月～2020年3月末

# 迷いの森の中へ

- 私たちが応募した理由
- 私たちの期待
- 私たちの工夫
- 私たちが大切に考えたいこと





コミュニティやオープンスペースって目的もなくふらっと立ち寄れる場であるって大切だと思ってて。うーん。どうしたらいいんだろう？

場づくりのハード面（建物）の可能性を探りたいな。

人や地域を自然と巻き込むヒントを得たいな

人を惹きつける空間デザインって視点を知らりたいな。

あそこに面白そうな建物がある！ちょっと寄ってみよう。

## ボトムアップで築く、私たちのパブリック

はじめてここを訪れた人は、まず建築に驚くことでしょう。その外観はきわめて強いメッセージを放ちます。全部で7つある階層は透き通るようなガラス張り。内部にいる人の動きは、外から見えるようにデザインされています。各階は大胆なスキップフロアで連続的につながり、空間全体の一体感が表現されます。設計は世界で活躍する建築家・妹島和世さんが手掛けました。



▲周囲の風景が内部空間に溶け込む、とても透明感のある設計です

SHIBAURA HOUSEは東京都港区・芝浦にある、社屋兼コミュニティスペースです。会社の創立自体は1952年ですが(旧・広告製版社)、2011年、社屋の建て替えを機に、SHIBAURA HOUSEとしてリニューアル。「芝浦にある、ひとつの家」というコンセプトです。

ここは近所に暮らす子どもたちをはじめ、会社員、そして海外のビジターも集まるオープンなスペースとして運営しています。また、料理や英会話のクラスから国内外のゲストを招いたレクチャーまで、年間100回をこえる文化的プログラムも実施してきました。とくに1Fは誰でも無料で出入りができる、公園のような場として開放。ランチタイムには近所の人々で賑わう光景をみることができます。

SHIBAURA HOUSE ホームページより  
[https://shibaurahouse.jp/?page\\_id=472&lang=ja](https://shibaurahouse.jp/?page_id=472&lang=ja)

# 株式会社 SHIBAURA HOUSE

2020/12/15訪問

-1952年設立  
-広告デザイン会社  
-地域のコミュニティスペース兼社屋  
-ユニークな空間を活かしながら、地域に根ざした文化プロジェクトに力を注ぐ。

- 空間が引きつけ、場を活かす
- 交差を生み、連鎖させる
- 会社の力を通じて、直接力が出せる感覚
- 社会状況の背景を考えた、実践。





場のあり方を再考するためには、  
運営する僕たち自身の事にも目を向けたい。  
うーん。どうしたらいいんだろう？

決めたり、話し合う「会議」  
について学んでみたいな。

あそこで何か集まっている  
から、参加してみよう！

組織としてどのレベルで  
どう意思決定するかを明  
確にしていきたいな。

- 1996年設立
- 子どもの居場所事業が始まり
- 場づくり支援
- 「場」としてのカフェ事業
- 自分の生活を俯瞰する「場」の運営

- 「すきま」が大事
- 決断すべきは自分
- リスponsする責任
- 会議のプロセスの理解
- プロセスの納得感と結果の納得感の違い





お互いの考えを  
共有してみたら  
どうなるだろう？

これまでの学びを  
生かして会議を  
主催してみよう

周りの若手スタッフも  
モヤモヤを抱えている  
のではないだろうか？

日頃のMTGから外れた  
話題を話してみよう。

# 「ありのままってなんだろう？」からみえたもの 2021/3/3

## 高等学院・libyで大切に考えている 「ありのまま」とは一体何か？

- ・ 各部のユーススタッフ（8名）
  - ・ 部署を混ぜて4名×2グループ
  - ・ 2時間の枠で実施
  - ・ ワーク×2本
- 
- ・ 同じ組織で共有することの重要性
  - ・ いつもと違うメンバーの化学反応
  - ・ 自分の大事にしていること、想っていること、感覚の話に広がるから、他者理解につながる





20年前、libyは先駆的だった。  
今現在、オルタナティブの  
最先端ってなんだろう。

センスのいい感じ。  
おしゃれな感じ。  
知りたいな。

活発な組織に  
ヒントってあるの  
かな？

日々、社会の状況や関わりの中で、  
価値観が変わっている感覚あるなあ。  
今「求められているもの」って？

-2005年創業

-興味開発という『学びの変革』

-組織に対する『働き方の変革』

-学習ではなく探究

- エンパワメント
- 組織の動きやすさ、多様さ
- インプット、知識の循環
- 安心感
- 保護者を巻き込んだ視点



驚きと感動の種をまく。

はじめての方へ





行き詰まり感の  
正体は？

居場所は他にもあるが、  
どんな活動をしている  
んだろう。

新しい事を始めてみた  
いが、目の前のことで  
いっぱいいっぱい。

あ、あそこで賑やか  
な活動をしている！  
行ってみよう！

# NPO カタリバ

2020/3/24 zoom

## 2001年から認定NPO

- ナナメの関係という共生モデル
- 10代に伴走する技術と仕組み
- 個人の成長を支える強い組織文化

- 組織理解・自分の言葉化
- インプットの活発さ
- 「ユースワーカー」育成
- エリア設定
- 社会的課題が第一優先

KATARIBA

> NPOカタリバとは > 団体概要 > 活動紹介 > 採用 > お問い合わせ

> 寄付で応援

ALL

TOPページ | NPOカタリバとは

すべての10代が  
意欲と創造性を育める、  
未来の当たり前を  
目指して

私たちは、信じています。

繊細で多感な思春期に、  
多様な人と出会い・語り・悩み・学ぶこと。  
「こんな風になりたい」という憧れを見つけること。

そのすべてが、未来をつくりだす意欲と創造性になることを。

しかし、社会の分断と格差が進み、  
生まれ育った環境や受けた教育によって、  
「きっかけ格差」が広がっています。

# 迷いの森を抜けて —学びから弾け出たこと—

## 個人でできる事

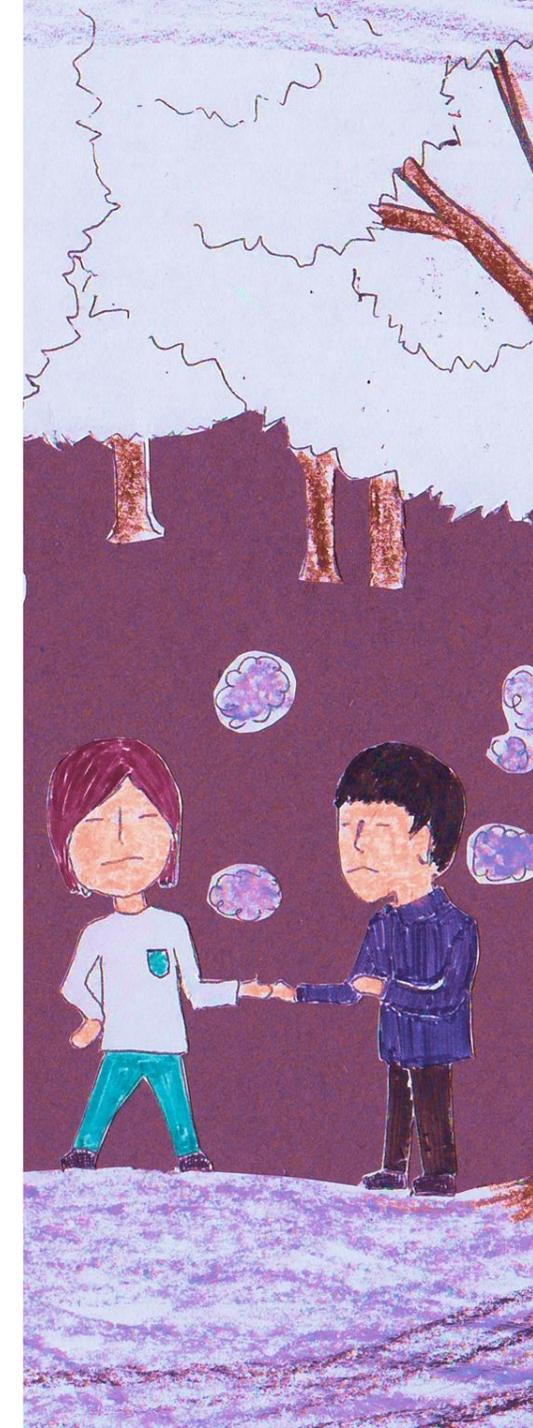
- ・自分は何を決めるのか、明確にする。
- ・言葉の意味を、理解して自分の言葉にしていく。

## みんなで取り組める事

- ・立ちかえる時間を作る。
- ・基礎理解を全員でする。
- ・言葉の定義や解釈を共有する。
- ・ $Y \times O =$ 新たな気づき、を生む。
- ・リサーチに取り組む。

## ひとつの提案

- ・組織内にエンパワーメントチームを作る。



# 質疑応答



# おわりに

～ご協力への感謝～

- 株式会社 SHIBAURA HOUSE のみなさま
- NPO法人 れんげ舎 のみなさま
- (株) ワイズポケット 探求学舎 のみなさま
- NPO法人 カタリバ のみなさま
- 東京YMCA高等学院・libyスタッフ
- 日本YMCA同盟ユース委員会

